

大分大学医学部医学科 4年 佐藤史子さん

令和3年度研究室配属発表会にてセッション賞を受賞

研究テーマ「肥満に伴う新型コロナウイルス感染の重症化に対する ACE2 の有用性」

(指導医:後藤孔郎講師)

私は今回、「肥満に伴う新型コロナウイルス感染の重症化に対する ACE2 の有用性」というテーマで研究を行いました。現在最も注目を集めている新型コロナウイルス感染症に関する研究に先行配属から関わらせていただくことになり、とても嬉しく興味深い気持ちで研究を開始しました。はじめは実験手技や原理などでわからないことが多くありとても不安でしたが、後藤先生に一から丁寧にご指導いただき、無事に発表することができました。今回の研究テーマについてはまだ未知な部分も多く、期待していた結果が得られなかった場合にその原因を考察したり、色々な文献を読んだりすることで非常に多くの知識が身につけ、研究の面白さが感じられたと思います。この研究室配属を通して学んだこと、感じたことをこれからは活かし、色々なことに挑戦していきたいです。最後になりますが、指導医の後藤先生をはじめお世話になりました医局の先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

● 指導医 後藤孔郎先生のコメント

新型コロナウイルス感染が蔓延するという国難に対して、国立大学に携わる者として何かできることはないかというモチベーションで取り組みました。新型コロナウイルスのリコンビナント S タンパクがマウスの臓器に侵入するののかという大きな不確定要素がありましたが、肺におけるウエスタンブロットングで S タンパクが投与量依存性に同定されるのをみた時は、心ときめくものがありました。今後も「肥満に伴う新型コロナウイルス感染の重症化に対する ACE2 の有用性」のテーマでコツコツと実験を積み重ねて解明していく所存です。ほぼ毎日実験に取り組んでくれた佐藤史子さんに、あらためてお礼申し上げます。

● HIRO'S EYE

佐藤史子さん、セッション賞受賞おめでとう！

今回のテーマは、今まさに世の中で起きている新型コロナウイルス感染症の新しい治療戦略についての研究でした。ラットに新型コロナウイルスの外側のスパイク(S)蛋白質を投与して組織内に侵入するモデルを確立した

ことは素晴らしいし、S蛋白質が特に肺組織から侵入したことをとらえたのは実際の患者さんで見られていることを再現していました。さらに、外因性に ACE2 を投与することで S蛋白質の侵入を抑制できることが示され、今後、新規治療への発展が期待される素晴らしい結果でした。また、質疑応答では、最近発表された論文を引用しながら回答をしたり、データに関する自分の考えを非常に明確に述べていて、将来の研究者としての才能の片鱗が見えました。是非、論文文化までつなげられるように頑張ってください。

(柴田洋孝)



